

【ハイチ地震救援派遣報告】

診療情報管理課管理第一係長 無津呂 昌代

2010年1月12日16時53分（現地時間）に、ハイチ共和国の首都ポルトープランス市の郊外約15キロメートルを震源とする、マグニチュード7.0の地震が発生しました。

この地震により、ポルトープランスを中心に、大統領官邸はじめ国連ビル病院・学校等、各地で多数の家屋が倒壊し、死者は20万人を超え、被災者は300万人にもものぼる被害が生じたと報じられています。

私が第2班事務管理要員として派遣されたのは、地震発生から約1ヶ月後の2月15日から3月20日までの約5週間でした。被災から1ヶ月経過したハイチの首都ポルトープランスには、赤十字をはじめ各国から集まった多くのNGO等の支援が提供されてはいるものの、市中心部や車で少し入った山間部では、倒壊した家屋の瓦礫の横に被災テントを建てて生活せざるを得ない被災民の方々が多く存在し、また配布された被災テントを使用して、集合してテント生活をしているIDP（国内避難民）キャンプがあちらこちらに点在している状況でした。

現地での事務管理要員としての任務は、日赤ハイチ事務所全体で使用する前渡金（公金）の管理・支出・管理帳簿の作成、ハイチ人現地スタッフの雇用・契約・更新作業、次班新規要員の入国（受入れ）準備、帰国要員の帰国準備、物品調達、要員が利用する車の配車、メンテナンス、要員が住む住居の環境整備、関係機関との連絡調整、本社依頼事項への対応業務、日赤事務所全体の備品管理、広報業務、チームリーダーのサポート等、種々の業務を行っていました。

今回の派遣では、事務管理要員としては直接、被災者の方に接することは出来ませんでした。良いチームメンバーに恵まれ、これまでの派遣では学び得なかった多くの事を経験することができ、今後の自分自身の課題も明確となった5週間でした。

